

四つのテスト 現行はこれに照らしてから 1.真実かどうか 2.みんなに公平か 3.好意と友情を深めるか 4.みんなのためになるかどうか

◆司会 馬場隆寿SAA委員

◆四つのテスト 古里安幸さん

◆ご来訪ロータリアン

◆会長挨拶

柳龍一郎会長



みなさん、こんにちは。先週は私の前職のお話をさせて頂きました。あれから当時の事を思い出しておりまして、今日もその頃のお話をさせて頂きたいと思います。

私のいた住宅業界は、別名クレーム産業と言われておりました。あるクレームのお話です。入社して最初の一年は工事、次の二年目は設計、そして三年目に正式に配属となり、私は一年目にいた直営部に戻って厳しい上司の下、現場管理をしておりました。福岡市南区の高級住宅街で、解体から請け負った物件でした。物静かな紳士の司法書士か税理士さんご家族と、お母様の二世帯住宅でした。解体が終わったところで、営業担当が血相を変えてやってきて、お客様が話が違くと怒っていらっしゃるというのです。原因はこうです。解体に当たり、屋根瓦が下の土に入らないようにとお願いしていたのに入っている。宗教上の決まり事だとおっしゃるというのです。初めて聞いた話で、営業から引継ぎでは、営業「解体の時、重機が入って上から壊すの？」だったので、柳「いえ人力で降ろします」こうして書いて反省するに、その時お互いが理由を説明するか、聞き直せばよかったのですが、後の祭りです。何度も営業・設計・工事とお詫びに伺っても納得して下さいません。現地には、ダンプに載せる時に割れて散らばった瓦の欠片が。最後は重機で行ったり来たりして整地しましたので、どこの地中にあるかも分かりません。何人いれてふるいに掛けたって全部見つけられるか分かりませんし、後で一つでも出てきたらおしまいです。とうとうお客様が、契約解除したいとまでおっしゃい出しました。その頃の社内では、稟議書が累計2千万を超えたら進退伺を書かなければならないと、まことしやかに言われておりました。実は丁度子供が生まれる時だったのですが、憂鬱で楽しみなんかありません。上司が「一緒に行くぞ」と

お客様の仮住まいのアパートへ。ひとしきりお話を聞いたところで、「解りました。それでは瓦の欠片が無くなればいいんですね?」「そうです。」「それではこちらで土を全部入れ替えましょう。表面から50センチ分取ればいいですね」これでお客様は納得です。実は土、即ち真砂土は2トン車で5千円位とリーズナブルです。重機も解体が終わったばかりでまだ現場に置いてあります。解体業者さんですからダンプもあります。上司が解体業者さんに話して、極めて安い金額で納めてしまいました。上司は最初の互いの確認不足を諷める事はせず、「交渉するのはねえ、こちらが弱い立場にある時がチャンスなんよ。じゃあこうしたらいいんですねとか、これはやりますからここは我慢して下さいとかゆうのよ。」無事に工事再開となり、地鎮祭を迎えました。密教世界のような、後にも先にも初めての地鎮祭を体験しました。それからはスムーズに進み、無事お引き渡しできました。さて、本日は会員卓話です。田中会員の空手のお話が聴けます。本日も宜しくお願い致します。

◆幹事報告

山田孝二幹事

①例会休会のお知らせ

長崎北RC 2/13(月) 長崎出島RC 2/24(金)

定款第7条第1節により休会

◆結婚・誕生・入会祝い 1/29~2/4

【入会祝】 森修司さん



◆委員会報告

平山寿則職業奉仕委員長

職業活動並びにボランティア活動表彰者の推薦のお願いです。福祉とかそういう形にこだわらず、いろんな活動をしているという視点で、幅を広げた推薦をたくさん上げていただければと思います。締め切りは3月末までですが、皆様のご推薦をよろしく願いいたします。

◆期首会員数	35名	◆入会者	2名	◆退会者	1名	◆現在	36名
◆1/31例会出席	23名	◆免除者出席	7名	◆欠席	13名	◆出席率	71.88%

会員卓話

田中豊俊会員



「僕の空手について」

◆ニコニコ箱

■柳龍一郎さん 田中さん、本日の卓話よろしくお願ひいたします。確か空手の流派はうちの愚息と同じはず。楽しみにしております。

■江上徹也さん 53回目の結婚記念日のお祝いの花に感謝！2人とも後期高齢者の為、すべての問題は「年のせい」で片付けて平和に暮らしております。

■劉 済昌さん 孫がラサールに合格しました。

■嶽本幸次さん ニコニコのために。田中会員、卓話頑張ってください。

◆春徳寺の裏山の「城のこし」にある
「龍頭巖」 許斐義彦

寛永年間(1624～1643年)、第2代末次平蔵茂房が父・政直の墓を作ろうと巖に斧をいれたら鮮血が吹き出した。中止したら霊気が消え、時折、その傷跡が鳴動するようになった。元々、この巖には霊気があったと言われ、末次家が滅びたのは長崎への風水の源であったこの巖を削り取ったためと言われている。

(ヒロスケ長崎 のぼりくんだり)より



◆ハイライトよねやま 274号

ウクライナから避難した学友
—母校が受け入れ—

ウクライナ出身の米山学友、コベリャンスカ・オクサーナさん(1998-99/奈良RC)が12/15、自身の世話クラブであった奈良RCの例会にて卓話を行いました。オクサーナさんは、ウクライナの情勢悪化を機に、母国からの避難を余儀なくされ、米山奨学生時代に自身の留学先であった天理大学と天理市のサポートにより来日。2022年4月から、同大学の職員として勤務しています。オクサーナさんによるスピーチの冒頭の一部をご紹介します。「私は1995年に天理大学に留学し、98年に奈良RCの米山奨学生になりました。当時のウクライナは旧ソビエト連邦から独立し、経済や政治体制の構築を始めたばかりで、国家的に大変な時期でした。来日後も、両親からの支援は望めず、生活費を稼ぐので精一杯でした。米山奨学生になったことは、勉学に集中できることを意味し、とてもありがたかったです。最初に参加した例会で、奈良RCの会長が『この奨学金は、学生を支援するためのものです。勉強する時間を確保するためのものです。そして帰国後は日本に関連した活動を続けてほしい。それぞれの国で日本語や日本文化を広め、自国との国際関係を促進することを望んでいます。これが、私たちの未来への貢献です。それを忘れないでください』と、仰いました。この言葉は今でもはっきりと覚えています。初めて奨学金をもらったとき、喜びだけでなく、自分の中で責任感と覚悟を感じました。会長の言葉の通り、私はこれまでに約30の研究論文、4冊の辞書、2冊の日本語・日本文化学習者向けの教科書を出版するなど、人生の大半を日本と関わりながら過ごしてきました。今回、このようなご支援をいただいた、母校の天理大学と天理市、そして日本の皆さまに心から感謝の気持ちを申し上げます。ロータリー米山記念奨学会の事業は、日本語や日本文化を世界に広めるためにとっても重要な活動であることをお伝えしたいと思います。米山の繁栄と、多くの感謝の気持ちを持った学生たちが、それぞれの国で日本との国際関係を強化するために活動してくれる卓話を行うオクサーナさんを祈念します。

2/14(火)当クラブの例会は休会

ニコニコ箱	目標 1,200,000円	1/31	11,000円	累計	519,538円
ロータリー財団寄付	目標 1人150ドル/年間	1/31	5,000円	累計	139,000円
米山記念奨学寄付	目標 1人16,000円/年間	1/31	13,000円	累計	149,000円

◆会長 柳 龍一郎 幹事 山田孝二 ◆創立：昭和 59 年 10 月 2 日 ◆事務局住所：長崎市東古川町 4 - 16 フジビル 202
◆事務局連絡先：Tel:095-828-1091 Fax:095-824-5520 ◆e-mail:nwrc2740@ngs2.cncm.ne.jp
◆例会：【火】12時30分～13時30分 ◆例会場：ホテルニュー長崎 Tel:095-826-8000
◆作成：公共イメージプロジェクト委員会/クラブ会報委員会 ◆委員長：山崎雅之 ◆編集：事務局 中田久美子